Japanese Association of Educational Psychology

120 教育心理学研究, 2000, 48, 120—127

続柄の違う祖父母と孫の関係

前原武子[1]　金城育子[1]　稲谷ふみ枝[2]

本研究は高校生の孫が続柄の異なる祖父母とどのような関係にあるか明らかにすることであった。父方祖父（n=79），父方祖母（n=103），母方祖父（n=85），母方祖母（n=100）のうちいずれか1人について，祖父母の役割・機能を孫がどう意味づけるかについて検討した。孫が意味づける祖父母機能として，「伝統文化伝承機能」，「安全基地機能」，「人生観・死生観促進機能」の3つの因子が抽出された。祖父母の続柄による違いを孫の性別で検討した結果，多くの項目で有意な交互作用が見出された。母方祖母は父方祖父母より，孫娘から「伝統文化伝承機能」および「安全基地機能」を高く認知されることが明らかにされた。一方，孫息子は孫娘より，父方祖父の「伝統文化伝承機能」，「安全基地機能」，および「人生観・死生観促進機能」を高く評価した。これらの結果は，母方祖母—孫娘というキンシップの存在だけでなく，父方祖父-孫息子というキンシップ関係も存在することを示唆するものである。

キーワード：孫，祖父母，キンシップ，祖父母機能

かつて，祖父母から過保護に扱われた孫を比喩して，「年寄り育ちは三文安い」と言われることがあった。しかし，最近の研究（たとえば，Roberto & Stroes, 1992）によれば，孫は祖父母からさまざまな価値を学んでいるという。孫にとって祖父母の存在は特別な意味をもつようである。特に母方の祖母に対する特別な意味づけは，孫—祖父母関係の興味ある特徴の1つとして指摘されている。

Eisenberg（1988）は，青年期（大学生）の孫と祖父母との関係を検討し，孫と母方祖母との間の親密な活動を明らかにした。その続柄の違いは，「kinship」という概念で説明された。つまり，女性が家族の異世代間をつなぐ機能をもち，家族関係の見張り役とでもいう役割を担っているというのである。祖母と母，母と娘という2つの親子によって家族の絆が強められ，次世代へと引き継がれていくため，父方より母方の，そして祖父より祖母が孫にとって親密な対象となるはずだという。

しかしながら，孫が母方祖母と親密な関係にあることを見出した研究（Hodgson, 1992 ; Hoffman, 1979-80）がある一方で，Creasey & Koblewski（1991）のように，続柄の違いを見出さない報告もある。さらに，孫の性による違い，すなわち孫娘が母方祖母とより親密であるというEisenberg（1988）の予想は確認されていない。孫の性，祖父母の続柄によって孫—祖父母関係に違いがあるのか，また社会的背景の異なるわが国でも，孫娘が母方祖母と特別な関係にあるのか，あらためて検討する必要がある。伝統的に長男家族と同居する祖父母が多いわが国では，孫は「内孫」と「外孫」というように区別され，父方祖父母との間で母方祖父母とは異なる特別な関係をもつ。祖父母と同居していない孫でも，「本家」の父方祖父母とは特別な関係をもつ。しかも，「内孫」でも男子と女子では異なる立場に置かれる場合がある（特に慶弔などの儀式で）。そのような中では，父方祖父母が，孫，特に孫息子にとって重要な意味をもつのではなかろうか。先行研究は，孫にとって，母方祖母が最も親密であり，逆に父方祖父が最も疎遠であることを指摘してきた。しかし，母方祖母だけでなく，父方祖父もまた，特に孫息子にとって親密な位置にあることが予想される。

もちろん，孫と祖父母の関係は続柄の違いだけで規定されるものではない。多くの研究（Hartshorne & Manaster, 1982 ; Hodgson, 1992 ; Hoffman, 1979-1980 ; Kahana & Kahana, 1970 ; Kennedy, 1990 ; 1991 ; Creasey & Koblewski, 1991 ; Matthews & Sprey, 1985 ; 小川, 1993）は，孫—祖父母関係を家族形態や居住形態，祖父母との交流頻度・形態，祖父母の年齢などの諸要因によって特徴づけている。

しかし，孫が祖父母と一緒に行う日常的な活動に焦点をあてた研究は，そう多くない。その中で，Eisenberg（1988）やKennedy（1991）は，孫が祖父母に親密感をもつ理由を分析し，孫と祖父母間でなされる活動の違いが続柄の異なる孫—祖父母関係を特徴づけることを報

1　琉球大学（903-0213　沖縄県西原町千原1　琉球大学教育学部）　E-mail takeko@edu.u-ryukyu.ac.jp
2　志學館大学

NII-Electronic Library Service

Japanese Association of Educational Psychology

告している。一方，田端・星野・佐藤・坪井・橋本・遠藤（1996）は，祖父母の象徴的機能に焦点をあて，孫が意味づける祖父母機能をもとに孫―祖父母関係を明らかにしている。彼らは，祖父母機能として4つの因子（存在受容，日常的・情緒的援助，時間的展望促進，世代継承性促進）を抽出したのである。しかし，彼らは続柄の問題に関心を払っていないし，また祖父母と孫の日常的・行動的な活動への関心よりも祖父母の象徴的機能への関心に傾いている。それら両者を同時に視野に入れた祖父母機能の検討が必要であろう。いや，むしろ，祖父母の象徴性は孫が祖父母との日常的な活動経験をもとにつくられていくものであるから，孫―祖父母関係を理解するためには，まず孫と祖父母が共有する日常的な現実的な活動を明らかにする必要がある。さらに，孫―祖父母関係は時代によって，また地域や国によって異なることが予想される。Bengtson（1985）やWoehrer（1978）は，祖父母の機能が民族によって異なることを見出しており，われわれが今日居住する地域の祖父母と孫の現実的な活動を明らかにする必要性を感じる。

たしかに，われわれの身近にいる孫と祖父母の関係には地域的特性が反映されている。たとえば，親戚の法事や慶事，地域の伝統行事は高齢者中心になされることが多い。孫はその祖父母との関係をとおして，親戚や地域の人とのつきあいや，古いしきたりやまつりごと，行儀作法などを教えられるだろう。また伝統音楽や舞踊を趣味にする祖父母が多い。彼らは孫が伝統文化に親しむ機会を与えるだろう。あるいは，そのような祖父母との日常的な関係から，孫は老いることの意味や，人生のありかたについての抽象的思考を促されることもあろう。本研究は，そのような地域特性への関心から，あらためて祖父母機能の特徴を明らかにし，それが続柄の違いによって異なる特徴を示すかどうか検討する。そのために，従来，ほとんどの研究が大学生の孫を対象としたのに対し，本研究では他県出身者をほとんど含まない高校生を対象とする。そのような地域的特徴を背景に，孫息子と孫娘が続柄の異なる祖父母に対してどのような意味・機能を付与するのか比較検討する。

方　法

予備調査

孫の祖父母に対する感情と，孫が認知する祖父母機能の特徴を探る目的で，予備調査を行った。

対象は大学生80名（男子27名，女子53名）であり，「祖父母からどんな世話を受けたか，またどんなことを学んだか，祖父母にどんな感情を抱いているか」など，祖父母との関係について自由記述を求めた。

大学生が記述した内容は，彼らが，過去から現在において，祖父母を大切な存在として位置づけていることを示した。一方，うっとうしいとか，頑固で口うるさいなどの否定的感情をもった発達的特徴も示された。また，彼らは祖父母とさまざまな交流をもち，多様な影響を受けたことが示された。祖父母が孫の身の回りの世話や話し相手になったり，生活の知恵や伝統行事を伝えたり，さらには孫の人生観や社会問題などへの関心を高めたり，と実に多様な機能を祖父母は果たしていることが分かった。

本調査

被験者　人口約130万人の沖縄県（県広報，平成10・3・1），人口約5万人の豊見城村内にある県立普通高校1年生8クラス。全ての被験者の祖父母が健在であるとはかぎらず，被験者が小学3，4年生頃まで生存していた場合には，その回答を採用した（それ以前の場合には記憶の信憑性に欠けるおそれがあるし，Eisenberg, 1988でも同じ手続きが採用された）。その結果，父方祖父群79名（孫息子群：36，孫娘群：43），父方祖母群103名（孫息子群：54，孫娘群：49），母方祖父群85名（孫息子群：38，孫娘群：47），母方祖母群100名（孫息子群：49，孫娘群：51）の4群を構成することができた。

質問紙の構成と実施手続き　予備調査結果を参考にしながら，祖父母機能尺度39項目を用意した。被験者は2クラスずつ任意に父方祖父群，父方祖母群，母方祖父群，母方祖母群に割り振りされ，その1人の祖父母について各項目がどれほどあてはまるか，「非常にあてはまる」から「全然違う」までの5点尺度で評点が求められた。被験者には，割り当てられた特定の祖父母以外にも3人の祖父母が存在する。その3人の祖父母については，祖父母機能を測定する項目に回答しないことになる。

デモグラフィック要因として，4人の祖父母それぞれについて，①年齢，②健在か死亡か，亡くなっている場合，それはいつか（被験者が小学校3，4年生以前か以後か）③健康かどうか，④どこに住んでいるかなどに回答を求めた。各群の特徴はTABLE 1に示すとおりである。群間で祖父母の特徴に違いがあるのかχ^2検定を行った結果は，①年齢に違いはない，②健康では，8割前後が健康であり，4群間に違いはない，③死亡者（孫被験者が小学校3，4年生以後）の数にかたよりがあり，父方祖父群（すなわち父方祖父）に多い（$\chi^2=14.55$ $p<.01$），

NII-Electronic Library Service

Japanese Association of Educational Psychology

TABLE 1 群別祖父母の特徴（%）

	FF	FM	MF	MM
居住形態				
同居	12.5	15.4	3.0	0.0
近所	26.8	34.1	25.8	24.7
遠方	60.7	50.5	71.2	75.3
死亡	30.0	11.7	20.5	11.0
年齢				
75歳未満	50.9	62.2	56.3	70.1
75歳以上	49.1	37.8	43.7	29.9
健康状態				
元気	82.1	77.8	77.3	80.7

FF：父方祖父，FM：父方祖母
MF：母方祖父，MM：母方祖母

④居住形態にもかたよりがあり，母方祖父母群には近距離居住者（同居および歩いて行ける所）より遠方居住者が多い（$\chi^2=13.85$ p<.01），という特徴であった。祖父母4群間には，死亡者数と居住形態に違いがあったことになる。また，各群の孫被験者には，回答を求められた1人の祖父（母）だけでなく，割り当てられない他の3人（背後の祖父母と呼ぶ）の祖父母がいる。その4人の祖父母でデモグラフィック要因に違いがあるのか群別にχ^2検定を行った。その結果，①年齢については，いずれの群も4人の祖父母間に違いはなく，②健康であるかどうかは，母方祖母群だけで背後の祖父母に違いがあり（$\chi^2=10.80$ p<.05），③死亡者数については，母方祖父群だけで背後の祖父母に違いがあり（$\chi^2=8.52$ p<.05），④居住形態については，いずれの群でも違いはなかった。したがって，これらの結果から，任意に用意した祖父母4群の等質性に一部限界があることを考慮する必要がある。

結　　果

1. 祖父母機能

祖父母機能を測定する39項目について，祖父母込みに因子分析（主因子法，バリマックス回転）を行った。その結果，30項目3因子を抽出した。TABLE 2は，あらためて，その30項目について因子分析を行った結果である。第1因子は，「先祖代々の様子」や，「戦争のはなし」，「昔の生活の様子」，「社会の習慣・しきたり」などを話してくれた（くれる）などの10項目からなり，「語り部・伝統文化伝承機能」と命名された。第2因子は，「いるだけで安心感を与えてくれた（くれる）」，「優しく受け入れてくれた（くれる）」，などの11項目からなり，「安全基地機能」と命名できる因子である。第3因子は，「老いることの意味を考えさせてくれた（くれる）」や，「人の死」や「人生を生きぬく強さ」などを実感させてくれた（くれる）など9項目からなる，いわゆる「人生観・死生観促進機能」の因子である。累積寄与率は，61.29%であった。なお，α係数は，第1因子が.93，第2因子が.92，第3因子が.92であった。

TABLE 2 祖父母機能尺度の因子分析

	F1	F2	F3	共通性	α係数
1. 親の幼い時の様子を話してくれた（くれる）*	76	33	05	69	
2. 先祖代々の様子を話してくれた	74	21	25	65	
3. 昔の生活の様子を話してくれた	70	27	36	69	
4. 戦争のことを教えてくれた	69	08	33	59	
5. 社会の習慣，しきたりを教えてくれた	68	26	29	61	
6. 伝統を守ることの大切さを教えてくれた	64	32	24	58	
7. 伝統行事を伝えてくれた	63	30	36	61	
8. 家族の歴史を教えてくれた	63	17	49	66	
9. 昔の言い伝えなどを教えてくれた	61	18	50	65	
10. 地域の人たちとのつきあい方を教えてくれた	59	37	35	60	93
11. いつでも優しく受け入れてくれた	16	76	04	60	
12. いるだけで，安心感を与えてくれる存在	31	71	25	66	
13. 思いやりを育ててくれた	39	69	28	70	
14. いつも，家族の幸せを祈ってくれた	10	67	32	56	
15. プレゼントやおこづかいをくれた	07	66	15	46	
16. よく，身のまわりの世話をしてくれた	34	63	35	63	
17. よく，一緒に遊んでくれた	26	59	43	60	
18. 家族の絆を強めてくれた	50	56	27	64	
19. 話し相手になってくれた	48	55	27	60	
20. 親に叱られた時，かばってくれた	39	52	27	49	
21. 親戚とのつき合いを深めてくれた	38	50	30	48	92
22. 老いることの意味について考えさせてくれた	16	29	74	67	
23. 祖先から受け継がれていく家族の意味を考えさせてくれた	35	29	71	71	
24. 人生を生き抜く強さを実感させてくれた	30	39	69	72	
25. 勉強を教えてくれた	24	13	67	52	
26. 人の命の尊さを教えてくれた	32	43	63	69	
27. 人の死を実感させてくれた	28	21	61	49	
28. 生活の知恵を教えてくれた	39	37	59	64	
29. 人生についてアドバイスをしてくれた	53	20	55	63	
30. 礼儀作法を教えてくれた	48	23	54	57	92
寄与率（累積寄与率）	22.8	19.4	19.1	(61.3)	

*（　）内はすべての項目に入る
因子負荷量の小数点を省く

2. 祖父母の続柄と孫の性による祖父母機能の特徴

FIGURE 1～3は，各機能因子の得点（各因子に含まれる項目得点の合計を項目数で除した値）を性別，続柄（祖父母4群）別に示したものである。続柄(4)×性(2)の2要因分散分析を行った。その結果，まず，「語り部・伝統文化伝承機能」では孫の性および続柄の主効果は有意でなく，交互作用が有意であった［$F(3,359)=4.33$, p<.01］。単純主効果の検定結果，父方祖父群において孫息子（$M=3.28$, SD=.79）が孫娘（$M=2.50$, SD=1.02）より高い得点を示すことが分かった［$F(1,359)=14.10$, p<.001］。次に「安全基地機能」では，まず続柄の有意な主効果が見られた［$F(3,359)=2.81$, p<.05］。ライアン法による多重比較の結果，母方祖母（$M=3.44$, SD=.91）が父方祖母（$M=3.09$, SD=.94）より有意に高い得点を示した（$t=2.74$, p<.01）。また有意な交互作用も得られた［$F(3,359)=2.68$, p<.05］。単純主効果の検定結果，父方祖父

NII-Electronic Library Service

Japanese Association of Educational Psychology

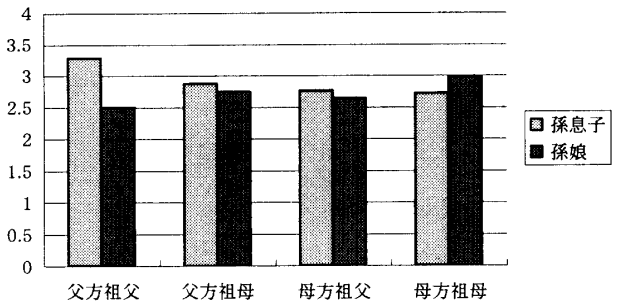

FIGURE 1　孫の性別，祖父母の続柄別伝統文化伝承機能得点

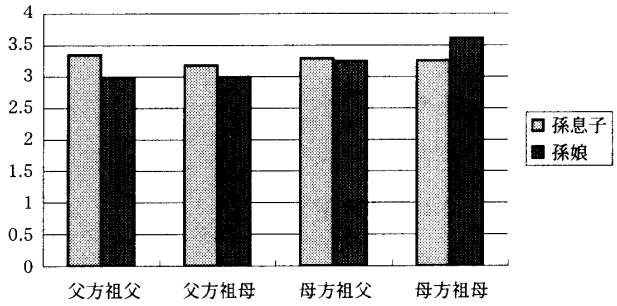

FIGURE 2　孫の性別，祖父母の続柄別安全基地機能得点

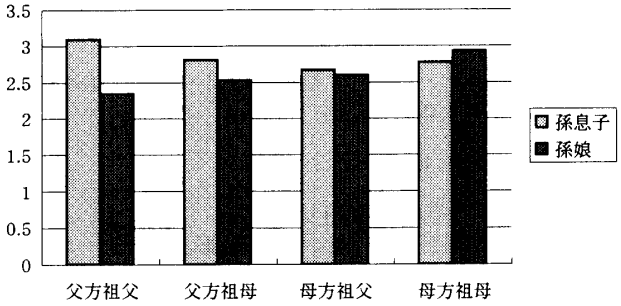

FIGURE 3　孫の性別，祖父母の続柄別人生観・死生観機能得点

群で孫息子（M＝3.35, SD＝.81）は孫娘（M＝2.97, SD＝1.05）より高い得点を示すものの有意傾向にとどまった。母方祖母群では孫息子（M＝3.25, SD＝.84）より孫娘（M＝3.61, SD＝.94）で高い得点が見られるが，その差も有意傾向にとどまった。また孫娘で続柄間が有意であったので［F(3,359)＝4.93, p<.01］，ライアン法による多重比較を行った。その結果，孫娘にあっては，母方祖母（M＝3.61, SD＝.94）が父方祖父（M＝2.97, SD＝1.05）より（t＝3.43, p<.001），また父方祖母（M＝2.99, SD＝.94）より，有意に高い値を示すことが分かった（t＝3.44, p<.001）。「人生観・死生観促進機能」ではまず性の有意な主効果がみられ［F(1,359)＝5.83, p<.05］，孫息子（M＝2.83, SD＝.89）が孫娘（M＝2.61, SD＝.99）より高い得点を示した（t＝2.44, p<.05）。また交互作用も有意であった［F(3,359)＝3.92, p<.01］。単純主効果の検定結果，父方祖父群において孫息子（M＝3.09, SD＝.73）＞孫娘（M＝2.34, SD＝1.03）となり［F(1,359)＝14.82, p<.001］，さらに孫娘において続柄間が有意となり［F(3,359)＝3.17, p<.05］，［母方祖母（M＝2.93, SD＝.94）＞父方祖父（M＝2.34, SD＝1.03）：t＝3.08, p<.05］となった。

各項目別に，同様に続柄×性の分散分析を行った結果，18項目で有意な（傾向も含めて）交互作用がみられた。それらについての分散分析結果を示したものがTABLE 3である。まず8項目で性の有意な主効果がみられた。「伝統行事―」，「家族の歴史―」，「地域の人とのつきあい―」，「人生を生きぬく強さ―」，「死の実感―」，「人生についてのアドバイス―」などの7項目で孫息子が孫娘より高い得点を示し，「家族の幸せを―」だけで孫息子より孫娘の高い得点がみられた。次に続柄の有意な主効果は，「優しく受け入れ―」「家族の幸せを―」，「身の回りの世話―」の3項目だけにみられ，いずれも母方祖母に得点が高い。単純主効果の検定およびライアン法による多重比較の検定結果はTABLE 3に示すとおり，孫息子が孫娘より，父方祖父に対して「先祖代々の様子―」など14項目（そのうち，伝統文化機能が8項目）で，また父方祖母に対しても「昔の生活の様子―」など4項目で高い得点を付与した。一方，孫娘は孫息子より，母方祖母に対して「先祖代々の様子―」など5項目で高い得点を付与した。続柄間の差をみると，孫娘は，「優しく受け入れ―」など10項目（そのうち，安全基地機能が6項目）で続柄間に有意差を示し，いずれも母方祖母に高い得点を付与した。一方孫息子は「先祖代々の様子―」など2項目だけで続柄間に有意差を示し，いずれも父方祖父に高い得点を付与した。

3．デモグラフィック要因別祖父母機能

父方祖父群に死亡者数（孫被験者が小学3, 4年生以後の死亡が対象であった）が多かったことから，父方祖父群に見られた特徴が死亡数に関連するものであるのかどうか検討した。被験者数が少ないことから，孫の性を込みにして死亡者（n＝23）と生存者（n＝55）間のt検定を機能別に行った。その結果，No.27（死の実感）だけで，死亡した祖父（M＝3.09, SD＝1.41）に生存祖父（M＝2.43, SD＝1.12）より高い得点付与が見られた（t＝2.19, df76, p<.05）。また，生存者で，祖父母の続柄の違いによって居住形態に違いがあったことから，各続柄別に，近距離居住（同居および歩いて行ける所）と遠方居住間の差を検討した。その結果，父方祖父群においてはNo. 6，10で，父方祖母群においてはNo. 6，10，19で近距離居住者が

NII-Electronic Library Service

Japanese Association of Educational Psychology

TABLE 3 祖父母と孫の分散分析（平均, SD, F 値） （ ）内 SD

	FF		FM		MF		MM		F 値			
	M	F	M	F	M	F	M	F	性	群	交互作用	
注1.	3.42	2.61	3.00	2.86	2.66	2.72	2.92	3.16	1.29	1.21	2.57+	FF:M>F
	(1.16)	(1.31)	(1.26)	(1.31)	(1.24)	(1.43)	(1.38)	(1.56)				
2.	3.08	2.30	2.83	2.75	2.45	2.40	2.27	2.86	0.36	1.42	4.53**	FF:M>F; MM:M<F
	(1.38)	(1.12)	(1.30)	(1.35)	(1.07)	(1.25)	(1.10)	(1.36)				M:FF>MM
3.	3.61	2.79	3.09	2.96	2.97	2.96	3.18	3.31	2.52	1.06	2.54+	FF:M>F
	(1.04)	(1.30)	(1.30)	(1.26)	(1.14)	(1.25)	(1.19)	(1.35)				
4.	3.58	2.72	2.96	2.84	3.00	2.98	2.82	2.88	1.89	0.60	0.15	
	(1.32)	(1.53)	(1.50)	(1.36)	(1.38)	(1.48)	(1.38)	(1.55)				
5.	3.42	2.46	2.87	2.67	2.90	2.72	2.74	3.26	2.48	0.67	5.45**	FF:M>F; MM:M<F
	(0.95)	(1.27)	(1.17)	(1.14)	(1.23)	(1.35)	(1.23)	(1.31)				F:FF<MM
6.	3.11	2.70	2.87	2.57	2.82	2.72	2.59	2.86	0.90	0.34	1.42	
	(1.09)	(1.41)	(1.21)	(1.21)	(1.04)	(1.17)	(1.22)	(1.31)				
7.	3.39	2.50	2.72	2.69	2.82	2.36	2.78	3.00	5.18*	1.68	3.71*	FF:M>F
	(1.09)	(1.25)	(1.22)	(1.26)	(1.10)	(1.19)	(1.13)	(1.22)				
8.	3.08	2.23	2.85	2.63	2.63	2.53	2.57	2.63	5.32*	0.36	2.72*	FF:M>F
	(1.06)	(1.01)	(1.24)	(1.10)	(1.20)	(1.11)	(1.11)	(1.19)				
9.	3.11	2.37	2.70	2.80	2.61	2.63	2.71	3.14	0.13	0.90	3.48*	FF:M>F;
	(1.24)	(1.16)	(1.31)	(1.29)	(1.24)	(1.10)	(1.19)	(1.44)				F:FF<MM
10.	3.00	2.25	2.72	2.63	2.79	2.38	2.65	2.86	4.78*	0.39	2.98*	FF:M>F
	(1.08)	(1.21)	(1.16)	(1.13)	(0.98)	(1.04)	(1.12)	(1.19)				
11.	3.69	3.42	3.98	3.47	4.16	3.81	3.92	4.24	2.80+	3.77*	2.18+	FM:M>F;
	(1.02)	(1.45)	(1.11)	(1.21)	(0.96)	(1.30)	(1.12)	(0.92)				F:FF<MM, FM<MM
12.	3.25	2.88	3.13	2.78	3.45	3.17	3.33	3.33	3.34	2.11	0.47	
	(0.94)	(1.28)	(1.30)	(1.28)	(1.16)	(1.29)	(1.28)	(1.34)				
13.	3.50	3.00	3.22	2.69	3.37	3.21	3.08	3.61	1.51	1.67	3.32*	FM:M>F;
	(1.07)	(1.46)	(1.29)	(1.19)	(1.06)	(1.44)	(1.19)	(1.32)				F:FM<MM
14.	3.36	3.51	3.50	3.31	3.34	3.81	3.55	4.18	4.81*	3.08*	2.30+	MM:M<F;
	(1.06)	(1.17)	(1.13)	(1.30)	(1.03)	(1.12)	(1.62)	(0.94)				F:FF<MM, FM<MM
15.	3.39	3.67	3.74	3.86	3.74	3.85	3.84	4.18	0.76	0.91	0.85	
	(1.24)	(1.23)	(1.15)	(1.10)	(1.22)	(1.25)	(1.14)	(0.89)				
16.	3.39	2.59	3.20	3.00	3.11	3.04	3.55	3.75	2.75+	5.16**	2.57+	FF:M>F;
	(1.09)	(1.30)	(1.37)	(1.25)	(1.12)	(1.38)	(1.13)	(1.23)				F:FF<MM, FM<MM, MF<MM
17.	3.36	2.95	3.04	2.98	3.08	3.28	3.16	3.51	0.07	1.05	1.33	
	(1.22)	(1.41)	(1.26)	(1.45)	(1.08)	(1.47)	(1.21)	(1.43)				
18.	3.14	2.65	2.83	2.61	2.90	3.02	2.96	3.00	1.01	1.02	1.15	
	(1.03)	(1.25)	(1.08)	(1.22)	(1.13)	(1.27)	(1.22)	(1.17)				
19.	3.17	2.58	2.91	2.74	2.95	2.92	2.92	3.39	0.34	1.17	2.59+	FF:M>F;
	(1.07)	(1.30)	(1.22)	(1.29)	(0.97)	(1.43)	(1.21)	(1.52)				F:FF<MM, FM<MM
20.	2.94	2.61	2.52	2.46	2.63	2.45	2.33	3.14	0.19	1.12	3.63*	MM:M<F;
	(1.18)	(1.42)	(1.82)	(1.26)	(1.24)	(1.29)	(1.22)	(1.31)				F:FF<MM, FM<MM
21.	3.31	2.74	3.09	2.92	3.21	3.22	3.41	3.35	2.22	2.31	0.96	
	(1.04)	(1.12)	(1.19)	(1.17)	(1.07)	(1.25)	(1.24)	(1.25)				
22.	2.81	2.30	2.82	2.45	2.55	2.54	2.57	2.71	2.27	0.20	1.60	
	(1.12)	(1.23)	(1.23)	(1.10)	(0.92)	(1.17)	(1.12)	(1.01)				
23.	2.92	2.23	2.63	2.40	2.66	2.44	2.51	2.51	5.25*	0.04	1.45	
	(1.00)	(1.13)	(1.22)	(1.28)	(0.94)	(1.07)	(1.02)	(1.03)				
24.	3.22	2.42	2.80	2.55	2.82	2.77	2.98	3.08	3.88*	1.36	2.43+	FF:M>F
	(0.95)	(1.21)	(1.22)	(1.14)	(1.02)	(1.26)	(1.22)	(1.36)				
25.	2.58	2.07	2.17	2.18	2.34	1.85	2.08	2.26	1.94	0.54	2.02	
	(1.13)	(1.08)	(1.19)	(1.20)	(1.12)	(1.01)	(1.17)	(1.38)				
26.	3.17	2.61	3.02	2.80	2.74	2.91	3.25	3.26	1.13	2.21	1.32	
	(1.06)	(1.35)	(1.28)	(1.29)	(1.01)	(1.40)	(1.22)	(1.35)				
27.	3.03	2.28	3.09	2.49	2.47	2.57	2.78	2.75	5.95*	0.85	2.54+	FF:M>F; FM:M>F
	(1.07)	(1.26)	(1.24)	(1.25)	(1.19)	(1.22)	(1.27)	(1.31)				
28.	3.17	2.65	2.93	2.90	2.74	2.91	3.25	3.55	0.00	4.53**	1.86	
	(1.03)	(1.31)	(1.30)	(1.23)	(1.01)	(1.24)	(1.18)	(1.27)				
29.	3.42	2.14	3.06	2.50	2.87	2.47	2.74	2.94	5.01**	0.29	5.45**	FF:M>F; FM:M>F
	(1.06)	(1.16)	(1.27)	(1.16)	(1.32)	(1.25)	(1.31)	(1.26)				F:FF<MM
30.	3.56	2.41	2.72	2.56	2.84	2.87	2.84	3.37	2.05	2.33+	7.43**	FF:M>F; MM:M<F
	(1.07)	(1.21)	(1.24)	(1.15)	(1.11)	(1.25)	(1.32)	(1.28)				M:FF>FM, FF>MM, FF>MF
												F:FF<MM, FM<MM

FF＝父方祖父　FM＝父方祖母　MF＝母方祖父　MM＝母方祖母　F＝孫息子　M＝孫娘

注：TABLE 2 の項目番号と同一。　+p<.10　*p<.05　**p<.01

NII-Electronic Library Service

Japanese Association of Educational Psychology

遠方居住者より高い得点を示したが，父方祖父群，父方祖母群とも，3因子いずれも居住形態による違いは有意でなかった。一方，母方祖父群においてはNo.5，12，19，20で，また母方祖母群ではNo.7，10，13，16，19，20，28，30で有意差が見られ，いずれの群でも，「安全基地機能」の得点が近距離居住者＞遠方居住者となった［母方祖父：(近距離：$M=3.50$, SD$=.72$；遠方: $M=3.02$, SD$=.85$), $t=2.14$，df63，$p<.05$；母方祖母：(近距離：$M=3.83$, SD$=.88$；遠方：$M=3.28$, SD$=.84$)，$t=2.89$，df86，$p<.01$］。

討　　論

孫と祖父母の関係を続柄の違いに焦点を当てて検討した結果，母方祖母だけでなく，父方祖父も孫と親密な関係をもっていること，しかしそれは，孫の性によって異なるものであることが明らかにされた。

まず第1の特徴は母方祖母に対する孫娘の反応に見られる。孫娘は続柄の違いによって異なる反応を示し，母方祖母の多くの機能を高く評価した。その結果は，Eisenberg(1988)らの先行研究が指摘してきた母方祖母のkinship機能を確認するものである。さらに，孫娘が母方祖母に対して，「優しく受け入れてくれる」ような安全基地機能を高く評価する結果が得られたことは，本研究独自の成果である。

第2の特徴は父方祖父母に対する孫娘の反応に見られる。孫娘は父方祖父母に対して母方祖母と対照的な反応を示した。先行研究は，孫息子も孫娘も，4続柄のうち父方祖父との関係に最も希薄であることを報告しているが，本研究の孫娘は，父方祖父だけでなく父方祖母に対しても低く評価する傾向を示した。その結果が何を反映するものか，残念ながら本研究計画では明らかにされない。孫と祖母の直接的な関係によるものなのか，それとも，たとえば「嫁姑問題」のような，母と祖母の間に介在する特別な要因があるのか，今後，孫娘の親子関係や，親の夫婦関係，親と祖父母との関係などを分析検討しなければならない。

第3の特徴は，父方祖父に対する孫息子の特別な反応にある。孫息子は孫娘より父方祖父の多くの機能を高く評価した。孫息子が続柄の違いにかかわらず類似した反応を示したのに対し，孫娘が続柄による違いを示したことから，父方祖父に対する孫息子と孫娘の間の大きな違いとなった。先行研究（Baranowski, 1990；Eisenberg, 1988；Hagestad, 1985；Kennedy, 1991；Neugarten & Weinstein, 1964）は，孫娘が孫息子より祖父母と親密な関係にあることを指摘してきた。しかし，本研究は，むしろ孫息子が続柄にかかわらず，祖父母と多様な経験を共有する親密な関係にあることを見出した。その結果は，本研究が，祖父母の「安全基地機能」だけに焦点化せず，多様な意味づけを仮定したことから導かれた結果である。同時に，それは，本研究が「内孫」である孫息子と父方祖父母との特別なつながりを仮定したことを裏付けるものであり，父方祖父と孫息子の間のkinship関係を示唆する新たな可能性を見出したことになる。

Creaseyら(1991)は，kinshipを確認するために大学生の孫を対象に続柄の違う祖父母を比較検討したが，予想を裏付ける結果を見出さなかった。それを彼らは，健康な祖父母に限定したためだと解釈した。しかし，本研究の父方祖父と母方祖父どちらも6割前後が，また父方祖母と母方祖母はどちらも8割前後が「元気」であった。それにもかかわらず，祖父間，祖母間には孫との関係に大きな違いを本研究が見出したことことから，彼らの説明を容易に支持するわけにはいかない。また，本研究の父方祖父群の3割がすでに（孫が小学校3, 4年生以後）死亡しており，その数は他の3群より目立って多い。しかし，死亡か生存による父方祖父に対する孫の反応にはほとんど違いがなかった。一方，母方祖母群に遠方居住者が多く，その特異性が祖父母の続柄の違いを説明する可能性を秘めている。実際，母方祖父母においては，近距離居住者の方が遠方居住者より，孫から多くの機能を付与されるという興味深い結果が得られた。しかし，父方祖父群における居住形態の違いがわずか2項目にすぎなかったことから，本研究が見出した続柄の異なる祖父母と孫の関係に関する結果は，むしろ，祖父母の性役割とkinshipという2つの機能によって産み出されたものとして解釈した方が妥当であると思われる。すなわち，孫娘が評価した母方祖母の「安全基地機能」は，母方祖母が孫娘を優しく受け入れたり，世話したりという女性の伝統的役割をとおして孫娘との親密な関係を維持していることを物語るものである。また孫息子が評価した父方祖父の機能，たとえば，「地域づきあい」や，「伝統行事」，「人生についてのアドバイス」，「人生を生きぬく強さ」などの道具的な社会的スキルは伝統的な男性役割としての特徴を物語るものである。祖父母は伝統的な性役割機能を果たしながら，さらに，「老いることの意味」や「死の実感」を孫に伝えている様子が伺える。しかし，それだけでは，なぜ孫息子が父方祖父と，また孫娘が母方祖母と親密な関係にあるのか説明できない。そこには，やはりkinshipの概念を導入する必要がある。た

NII-Electronic Library Service

Japanese Association of Educational Psychology

とえば，孫息子は孫娘より，父方祖父から「先祖代々の様子」や，「家族の歴史」，「親の幼い時の様子」を聞くことが多いし，孫娘は孫息子より，母方祖母から「先祖代々の様子」を聞いたり，「家族のしあわせを祈る」様子に接したりする。それらは，孫息子にとって父方祖父が，また孫娘にとって母方祖母が kinkeeper としての役割を担っていることを示唆するものである。

本研究は，孫娘に対する母方祖母の kinship を確認し，先行研究を支持する結果を得た。それだけでなく，新たに，孫娘の母方祖母に対する反応が父方祖父母に対する反応と対照的であること，さらに孫息子が孫娘より父方祖父と多様な親密関係をもつことを明らかにし，先行研究を発展させた。しかし，いくつかの問題を今後に残している。

その1つは，続柄間の特徴を比較するための研究計画に関する方法上の問題である。続柄間の違いを検討するさい，異なる続柄群を独立に用意する研究計画と，同一の孫に4人の祖父母全員を用意する場合が考えられる。後者の場合には，4人の祖父母全員が健在である孫を確保することは非常に困難である。実際，Eisenberg (1988) でも死亡している祖父母の数や，祖父母の年齢，健康状態などは明らかにされていない。本研究では，続柄4群を確保するために，4人のうち1人を任意に特定し，独立の続柄群を用意した。しかし，この手続きでは，その他3人の祖父母に対する意味づけが不明である。独立の続柄群を用意する研究デザインと，繰り返しのある続柄群のデザインではどのような違いがあるのか，そのような曖昧さが残る。

第2の問題は，祖父母機能についてである。本研究は，孫にとって祖父母が果たす機能として，大きく，「語り部・伝統文化伝承機能」，「安全基地機能」，および「人生観・死生観促進機能」の3つを見出した。田端ら (1996) は祖父母の象徴的意味を明らかにしたが，本研究は，日常的な行動的な孫―祖父母関係をも明らかにすることができた。特に伝統文化伝承という独自の祖父母機能を見出した。しかし，それが地域の特性としてどれほど一般性をもつのか，今後検討を重ねる必要がある。

第3の問題は，居住形態による孫―祖父母関係である。本研究は，孫の性を込みにして祖父母との居住形態の違いを検討し，居住形態の違いによる祖父母機能の特徴が祖父母の続柄によって異なる可能性を見出した。今後，さらに被験者数を増やし，孫の性を含めた3要因計画の分析検討が要求される。

第4に，発達的変化と祖父母との関係に関する問題がある。孫が幼少期にあるのか，それとも青年期にあるのかによって両者の関係には異なる特徴が予想される。幼少期に親密であっても，いつか疎遠になり，それはまた変化するかもしれない。あるいは幼少期には祖父母の世話になったが，青年期になって自分が世話する側になり，両者の関係が違ってくるかもしれない。今後，孫の年齢を視野に入れた孫―祖父母関係の研究計画が必要である。

最後に，先にも述べたが，孫―両親―祖父母3者の関係について，本研究は情報を得ていない。「嫁姑問題」や「単親家族」あるいは「両親共働き」の問題など，孫と祖父母の関係に影響する諸要因については今後の検討を待たなければならない。

引用文献

Baranowski, M. 1990 The grandfather-grandchild relationship : Meaning and exchange. *Family Perspective*, **24**, 201—215.

Bengtson, V.L. 1985 Diversity and symbolism in grandparental roles. In V.L. Bengtson & J.F. Robertson (Eds.), *Grandparenthood*. Beverly Hills : Sage.

Creasey,G.L., & Koblewski, P.J. 1991 Adolescent grandchildren's relationships with maternal and paternal grandmothers and grandfathers. *Journal of Adolescence*, **14**, 373—387.

Eisenberg, A.R. 1988 Grandchildren's perspectives on relationships with grandparents : The influence of gender across generations. *Sex Roles*, **19**, 205—217.

Hagestad, D.O. 1985 Continuity and connectedness. In V.L.Bengtson & J.F. Robertson (Eds.), *Grandparenthood*. Beverly Hills : Sage.

Hartshorne, T.S., & Manaster, G.J. 1982 The relationship with grandparents : Contact, importance, role conception. *International Journal of Aging and Human Development*, **15**, 233—245.

Hodgson, C.G. 1992 Adult grandchildren and their grandparents : Their enduring bond. *International Journal of Aging and Human Development*, **34**, 209—225.

Hoffman,E. 1979—80 Young adults' relations with their grandparents : An exploratory study. *International Journal of Aging and Human*

NII-Electronic Library Service

Japanese Association of Educational Psychology

Development, **10** ,299—310.

Kahana, B., & Kahana, E. 1970 Grandparenthood from the perspective of the developing grandchild. *Developmental Psychology*, **3**, 98—105.

Kennedy, G.E. 1990 College students' expectations of grandparent and grandchild role behaviors. *The Gerontologist*, **30**, 43—48.

Kennedy, G.E. 1991 Grandchildren's reasons for closeness with grandparents. *Journal of Social Behavior and Personality*, **6**, 697—712.

Matthews, S.H., & Sprey, J. 1985 Adolescents' relations with grandparents : An contribution to conceptual clarification. *Journal of Gerontology*, **40**, 621—626.

Neugarten, B.L., & Weinstein, K.K. 1964 The changing American grandparent. *Journal of Marriage and the Family*, **26**, 199—204.

小川隆章 1993 孫と祖父母の関係に関する研究 応用心理学研究, **18**, 13—24.

Roberto, K.A., & Stroes, J. 1992 Grandchildren and grandparents : Roles, influence, and relationships. *International Journal of Aging and Human Development*, **34**, 227—239.

田畑 治・星野和実・佐藤朗子・坪井さとみ・橋本剛・遠藤英俊 1996 青年期における孫・祖父母関係評価尺度の作成 心理学研究, **67**, 375—381.

Woehrer, C.E. 1978 Cultural pluralism in American families : The influence of ethnicity on social aspects of aging. *Family Coordinator*, **27**, 329—339.

(1998.9.1 受稿, '99.11.20 受理)

Relationships of Grandchildren with Paternal and Maternal Grandparents

Takeko Maehara (University of The Ryukyus), Ikuko Kinjyo And Fumie Inatani (Shigakukan University)

Japanese Journal of Educational Psychology, 2000, 48, 120—127

The purpose of the present study was to specify adolescents' perceptions of their relationships with their grandparents. High school students provided information on their relationship with one of their grandparents (79 paternal grandfathers, 103 paternal grandmothers, 85 maternal grandfathers, and 100 maternal grandmothers). The students reported on a survey form the meaning that they attached to functions performed by their grandparents. Functions of grandparents, as perceived by their grandchildren, were "transmitters of tradition and culture, " "a safety base," and "teachers of the meaning of life and death." Clear gender differences were found between the grandchildren and the paternal / material grandparents. Granddaughters viewed maternal grandmothers, more than paternal grandparents, as "transmitters of tradition and culture," and "a safety base," whereas, compared to granddaughters, grandsons were more likely to perceive paternal grandfathers' functions as those of "transmitters of tradition and culture," "a safety base," and "teachers of the meaning of life and death." These results suggest that in addition to a maternal grandmother-granddaughter kinship line, there is also a paternal grandfather-grandson kinship line. Implications for further research were discussed.

Key Words : grandchildren, grandparents, kinship, grandparental functions

NII-Electronic Library Service